

園長だより NO111

令和7年度、14名の新入園児を迎えて新たな生活がスタートしました。どきどき、わくわく、緊張と混とんが入り混じりますが日を追うごとに楽しさを実感し家庭同様に穏やかに安心して生活できる環境になっていきます。職員一同、穏やかに、やさしく、丁寧にをもっと子ども達の生活を充実できるよう努めていきます。



園長だよりって何？

十数年前から月1回のペースで発行しています。いつまで続くかな？こういう類は熱量が徐々にさめ数年で廃刊になることが多いのですが、継続していることは奇跡でしょうと思うこともあります。ただ、子ども達と生活していると書かずにはいられない状況に置かれます。日々成長する子ども達、これまで多くの子どもと関わり、生活を共にしてきましたがひとり、ひとりの成長の過程は異なり同じ育ちはひとつもないのです。その姿に触発され影響を受け、学びを通じて、「子どものために自分が起こすであろうアクションが上書きされていきます、頭の中も子どもの（子ども達）のことでいっぱいになる。」「あんなこと、こんなことをしてあげたいな」「子どもの成長に助力して適正な環境をつくりたいな」と思うことで頭の中は埋め尽くさ



2025.4.4

れてしまう。」 俗にいう保育バカといわれる類だと自負している。現代の保育業界では絶滅危惧種に指定されてもおかしくないほどである。

ということで 子どものこと 共にかかわり生活を共にする保育者のこと 子どもを取り巻く環境のこと 親としての子育てのいろいろなど 読み手の苦勞なども考えずに書き綴っているのが園長だよりです。

その時々でどんなことを思い保育しているのか、何を大切に保育にあたっているのかなど保育の柱になる部分を文章に、言葉にすることで保育が明らかになり子ども達にかかわる大人がつながり、より良い循環が生まれることを期待し続けています。

穏やかに やさしく 丁寧に

上記の言葉は保育の3原則と私は考えています。当たり前にはできないようであれば保育を営むことに歪がきます。保育園での生活は子ども達の活気に満ち溢れていていつも子どもの声が至る所で響いている。保育室の音量については保育に携わっていない人が一日過ごすとしたならば 耳から入る音量については「うるさい」と感じるレベルであるかもしれない。70デシベル(db)～80db位は常に出ていてのではないかと 70dbという騒がしい街頭やセミの鳴き声。80dbだと電車の車内、地下鉄の車内と言われている。

静かに没頭して遊んでいることもあれば、大方は子ども同士で会話をしている、遊びの中での気づき、発見、思いの内を言葉のやりとりでつなげていく、保育室では幾つもの小さな集団で遊びながら会話をしている。それだけでも大きな音量が発せられているということになる。仮に自己中心的な元気な保育者がいたならば子どもの遊びを見守るどころか自分が楽しければを最優先して、はしゃいでしまうことは必須になる。これは最悪である。

私自身、わいわいと楽しむのは大好きであるが子どもの生活（保育室）ではできるだけ静かにして下さいと言っている。保育室では日常会話よりも小さい声で話しても会話は成立する。常に元気に大きな声は大きな間違いであり、子ども達の内的な聴感はとても優れているので「やさしい語りかけ」で十分であると思っています。また子ども達の会話からいろいろな情報が入ってくる、子どもの思考や仲間との関係性など耳を澄ましていれば育ちのポイントを理解できることに繋がっていく。

「穏やかに」

保育士が穏やかでなければ当然、保育環境は良い状態ではない。保育者の機嫌が悪いなどはもってのほか、子どもが穏やかに、情緒が安定して生活できるには人的環境の影響は大である。

大人は往々に自分の都合を優先させる、保育では保育士の考えるタイムスケジュールが優先されることある。悪意はないのだが、

「みんなで みんなで」というように一斉に動かそうとすることがある。特に年齢が低ければそれぞれの育ちや興味、関心、いま没頭しているあそびなどをみて食事の時間を少々ずらしたり、入眠を調整したりするのが当たり前であるのだがタイムスケジュールを優先する保育は子ども達を考えた枠に寸分たがわぬように入れようとする。そんな保育をしている園は残念だが多く存在している。子どもなりに自分のやりたいことを主張することも許されないケースもある。当然、そんな保育士は穏やかでない、穏やかに一日が始まっても思うようにいかなければ感情が崩れ、穏やかさは一変する。子どもにとっては悲劇である。遊びに夢中になることも許されず、睡眠を強要されたりする、まだ世の中には的外れな保育をしているところが多い、

「子どもの気持ちによりそった保育」「子どもを真ん中にして」と言われている昨今、保育で大切にすべきものはブレてはならない。子どものより良い成長を考えるとときにはかかわる大人の心の安定が不可欠である。

冒頭の「穏やか」には人として心地よい心情でいられるようにという願いがあり穏やかな心情がその環境を繕い、クラスの雰囲気を作っていく、園舎や保育室に感情があるはずもないがそこにいる人が保育室(室内)の感情を作るといっても過言ではない。1年の始まり、しっかりと心にとめておきたいことです。

(おぞら保育園 園長 廣部信隆)